

災害復旧ボランティアへの参加報告

NPOリニューアル技術開発協会

副会長 木村 章一

平成23年5月27日(金)～5月30日(月)まで岩手県九戸郡野田村へボランティア活動に行きましたので下記の通りご報告いたします。

記

■ボランティア活動場所：岩手県九戸郡野田村



野田村の東日本大震災による被害状況

■人的被害

死亡者 37名
うち村内死亡者 28名
行方不明者 0名

■家屋被害

全壊家屋 300棟以上
半壊家屋 150棟以上

※岩手県野田村ホームページより掲載

■ボランティアスケジュール

日程	集合場所:東京駅八重洲南口鍛冶橋駐車場(トップツアースタッフが受付します) ※被災地でのボランティア活動は[岩手県災害ボランティアセンター]より割振りいたします。	食事条件
1 5/27 (金)	東京駅(車内泊) 22:00発	×
2 5/28 (土)	盛岡ふれあいランド(休憩・洗面) [岩手県沿岸地区・ボランティア活動] 久慈市内(宿泊) 5:30 6:00 活動時間(9:00～15:00) ○添乗員は盛岡より同行いたします。	昼/夕
3 5/29 (日)	旅館 [岩手県沿岸地区・ボランティア活動] 盛岡ふれあいランド(経由) (車中泊) 活動時間(9:00～15:00)	朝/昼
4 5/30 (月)	東京駅 [解散] 06:00頃	×

食事条件 朝1回・昼2回・夕1回 利用バス会社:岩手県北バス

宿泊施設 新山根温泉 べっぴんの湯
〒028-8521 岩手県久慈市山根町下戸鎖4-5-1 電話番号 0194-57-2222

活動場所:岩手県九戸郡野田村(作業内容は到着時にご案内いたします。) 悪天候の場合は中止になる場合もございます。

■ボランティア活動内容 1 日目

5 月 28 日（土）：野田村沿岸地区で瓦礫拾い



このエリアの瓦礫拾いを行いました。



■ボランティア活動内容 2 日目

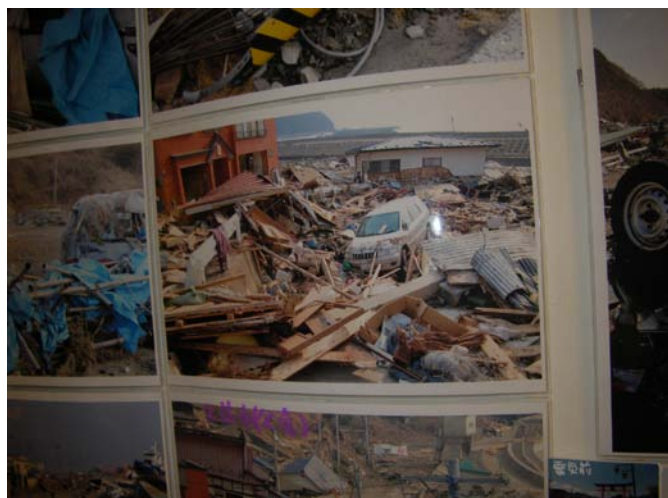
5 月 29 日（日）：野田村沿岸地区で排水側溝内の瓦礫撤去等



このエリアの瓦礫撤去を行いました。



■野田村の施設でみた被害写真



■ボランティア活動を行ってみて思うこと

私が参加したボランティア活動の参加者は40名ほどでしたが、最初にバスに乗り込んだ瞬間、若い女性ばかりが前のほうに座っていたので非常にびっくりしました。

人数割合は、男性60%、女性40%程度で年齢層は平均して30歳前後だったと思います。

若い人たちが自腹を切って、ボランティアに多数参加していることが驚きでした。

現地では、まずツアー会社の人からボランティアの注意点を聞きました。

1. 怪我をされてもかえって迷惑となるので絶対に無理しないでほしい。
2. 被災地の写真は撮らないでほしい。ボランティア集団写真も撮らないでほしい。見せ物ではない。
3. 体力は個人差があるのでボランティア同士で非難しないこと。

以上が主な注意点でした。

活動を開始するにしても全体を見渡しても何もない。ただ、ただ瓦礫が散乱している。

住宅のコンクリート基礎から伸びた金物が全て同一方向に曲がっている。

地面を良く見ると生活感あふれる茶器や缶ジュース、写真アルバム、賞状、学校のプリント、ハブラシなどがたくさん落ちている。

まさにそこは人々が日常生活を営んでいた場所なのにぐちゃぐちゃになっている。

本当に自分に何ができるのだろうかということが最初に頭に浮かびました。

限られた時間でしたが、ボランティアセンターの方に指示された瓦礫をひたすら拾うことだけしてきました。

あんなに壊れた村が本当に復興できるのか？

あんな状態になって、自分がそうになったら前向きに生きていけるだろうか？

ボランティア活動していたエリアで壊れた家を修理していた人がいたが、その周りは全て家がなくなっている。

将来、そこに住宅街が戻るのだろうか？

TVやマスコミは現地の状態を正確に伝えることが仕事なんだけど、あんな状態取材してはいけないと思った。カメラを回す時間があったら、瓦礫のひとつでも拾うことが人としての姿だと思う。

被災地では、親が行方不明になった子供が浮浪者のように食料品を求め村を徘徊していた時期もあったそうで、その時大人は、自分とその家族を守ることしか考えなくて、徘徊していた子供を助けることはなかったと聞き、とても悲しい出来事だと思いました。

私は自分の食料が食べれなくなったとしても絶対に子供を助けるべきだと思いました。

とにかく、自分ができることは、またボランティア活動に行くことだと思います。

今回、一緒に参加した人たちもみんな個人で申し込んでいたみたいだけど、最終日はみんなが仲間のように帰ってくることができました。そして、また同じメンバーで被災地に行こうという話題まで上がっています。

現地では、本当にみんなが感謝してくれています。自分がやったことを心から喜んでくれています。

また、必ずボランティア活動に参加したいと思います。

以上